

医療制度研究会通信（2007年9月） <http://www.iryoseido.com/>

郵便による配信を中止して初めての通信です。通例では前回の講演要旨、第43回「尊厳死協会の系譜」日本尊厳死協会理事長 井形昭弘先生をお届けすることになっておりますが、今回はアメリカの視察旅行が入ったため、後からもう一回通信を増やしてお届けします。今回の通信の内容は以下の通りです。

- I. 会計報告 NPO 法人としてスタートして一年がたちます。
- II. 次回の第44回講演会予告、
「厳寒期の医療を考えるー医師不足は生じていないとすれば」
講師：九州大学大学院医療システム学 信友浩一氏、
同志社大学医療政策経営研究センター 瀬戸山元一氏。
- III. 総会のお知らせ。ご出席いただけない方は委任状をメールにてお送りください。
- IV. アメリカツアの印象を中澤が書いた朝日新聞地方版のコラムをお届けします。
- V. 本田宏氏の著作「誰が医療をつぶすのか」が発刊されました。そのお知らせです。

アメリカツアーは病院とナーシングホームの関係などを視察する目的で参加しました。厚生労働省が進める病床削減政策の現地検証といったところです。近日中にこれに関する論説を医療制度研究会のホームページに載せる予定です。

また11月には第45回講演会としてシンポジウム「米国ポストホスピタルの医療・看護・介護システムと連携プレー(仮題)」を企画しています。アメリカの医療提供システムとそれを結ぶ退院調整ナースや訪問看護システムについて、ツアーを企画したジャーナリストの村上紀美子氏のコーディネートで行うことを企画しています。

I、平成18年度NPO法人医療制度研究会収支報告書

収入の部	¥1,532,306
支出の部	¥1,806,023
差引残高	¥-273,717

収入の部: 年会費 ¥663,000、講演会収入 ¥320,000、寄付 ¥189,000、
その他収入 ¥360,180、預金利息 ¥126、合計 ¥1,532,306

支出の部: 講演会(講師謝礼・交通費)費 ¥576,500、
NPO諸経費(交通費/事務費等)¥556,203
運営事務・雑費(郵送料、印刷費等)¥673,320 合計 ¥1806,023

II、第44回講演会のお知らせ

日時:9月29日(土)午後4時～6時30分(終了後は2階レストランで立食の懇親会)

場所:東京都港区の北里研究所病院3階セミナー室(収容80名)

演題:「**厳寒期の医療を考えるー医師不足は生じていないとすれば**」

講師:九州大学大学院医療システム学 信友浩一先生、
同志社大学医療政策経営研究センター 瀬戸山元一先生

参加費:会員 1000円、非会員 2000円、学生・研修医は無料。

参加ご希望の方は、お名前、御所属先、職種をご記入の上、zumechan@aol.com

もしくは、FAX 022-796-6270宛に申込み下さい。

お名前: _____

会員の方は○印をご記入下さい。	会員	非会員
懇親会(3,000円)の出欠	出席	欠席

御所属先: _____

連絡先: _____

FAX送付先:022-796-6270 (事務局 坂詰 清 宛)

III、総会のお知らせ

昨年9月にNPO法人としての設立が内閣府より承認されました。その最初の総会を下記の通り開催いたします。

日時:9月29日(土)午後3時～3時30分。

場所:北里研究所病院3階セミナー室。

議題:収支報告、事業報告、2007年度事業報告、定款の改正、役員の改選など。

出欠の有無に限らず、必ず出席の是非を9月24日[月]迄にご連絡願います。

資料は理事会の承認後(9月10日以降)に、ホームページに公開しますので閲覧いただきますようお願いいたします。

欠席の方は、お手数お掛けいたしますが、下記の文章をメールに貼り付けてお送りください。

NPO法人医療制度研究会 理事長 中澤 堅次 宛

「総会に欠席します。議案に関する件は、議長に委任いたします。」

メールのあて先 zumechan@aol.com にてご連絡をお願いいたします。

なお、ご連絡無き場合は、ご了承いただいた事として取扱いさせていただきます。

IV. 朝日新聞栃木版コラムから「アメリカの介護事情」 中澤 堅次

人生の最終章がどうなっているのかを実感することは難しいが、私にはある人のイメージが浮かぶ。その人は喘息を患い郊外からバイクを駆って通院されていた。お子さんは立派に自立され市内にお住まいだが、奥さんが亡くなられた後ちょっとした山の上にあるご自宅で畑を耕して一人暮らしをされていた。姪御さんがときどき掃除に見えるが食事は自炊で、自作の昼飯をご馳走になったことがある。食事がすむと食器はその場で洗い、そのあと大根を掘りに連れて行ってくれた。年を重ねて次第に体が不自由になられたころ、急に体の障害にみまわれ息子さん夫婦の住む宇都宮に同居し、その後外来には見えなくなったが、あるとき新聞の死亡欄にお名前を発見してご葬儀に伺ったのを覚えている。自分で暮らせるだけの住居があり、最低限の老後の収入が確保され、最後のときにはご家族の支えがある、日本の高齢者の理想型だがこれからはどうなのだろうか？ 高齢者の病気を完治できない医療はこの分野ではさほど大きな力はない。

アメリカの病院と他の医療提供体制を見学するツアーがあり興味があったので参加した。訪問した場所はニューヨークだったが、同行した同僚の看護師さんが言うように、高齢者の問題はどこの国でもほとんど同じである。

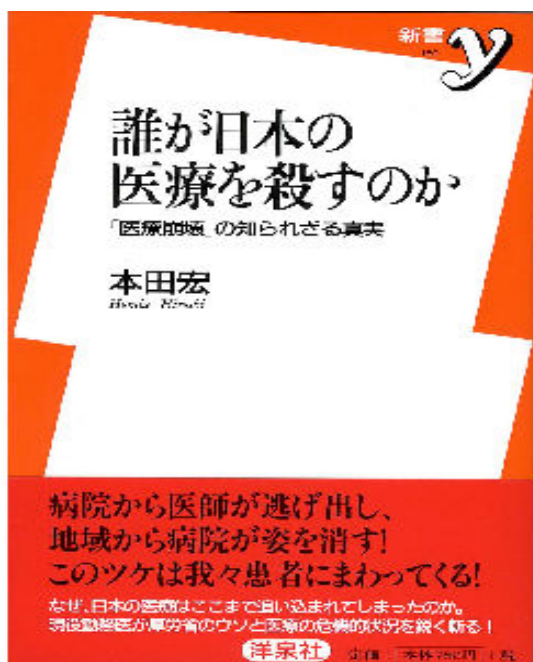
ニューヨーク郊外にある大きな市営のマンション群は、若者が抜けて老人だけが取り残され空き部屋も多くなった。その空き部屋に市は身寄りのない老人や障害を持つ高齢者を集めてコングロマリットと呼ばれる集合住宅に変身させていた。住民には住居と朝食と、ホームヘルプと病人のために訪問看護師の巡回サービスが提供されている。費用はそれぞれ年金などの収入に応じて負担があり、貧困者はただだと思ふ。医師は往診しないが、いざというときには大きな急性期病院に收容される。医療費が高いのですぐ退院するが、あとは看護師が治療を継続し看取することもある。死亡確認は看護師ができ、死亡診断書だけは医師が書くという。日本は家族が高齢リスクを担っているが、ゆくゆくは何かの公的仕組みが必要になる。政府、結局は国民だが「老後は自己責任」という責任逃れをしている状況にはない。

88

第45回NPO法人医療制度研究会講演会のお知らせ**日時：2007年度11月10日(土)午後4時～午後6時30分。****場所：北里研究所病院3階セミナー室****演題：「北米ポストホスピタルの医療・看護・介護システムと連携プレー(仮題)」****講師：村上紀美子氏 他2名(予定)**

V. 医療制度研究会関係の出版のお知らせ

誰が日本の医療を殺すのか 本田宏著、780円(本体価格)洋泉社発行(9月7日新発売)



本田宏氏の著書が発刊された。本書は本田氏の独特の
 話術で聴衆を魅了した講演の中身を詳しく説明したもの
 であり、医療制度研究会の活動のなかで、多くの心ある
 研究者や行動家の講演を通じて勉強を重ねた報告書で
 もある。内容はごく真面目なエビデンスに基づいており、
 かなり真実を突いた記述が基調になっている。かなりと書
 いたのは真実には人間の知恵の及ばない部分があり、
 厚生労働省の分析と同じように現時点では正しいと信じ
 ていても、神のみぞ知るといふ部分があるからである。
 常に真理に関して忠実かつ謙虚であること、人の救済の
 ために行動する理念がないと力にならない。自分のため、
 自分の家族のため、自分の属する団体のためにという矮
 小化された行動や、現場に潜む真実に反する誤った見方
 は近年の医療危機にあっては糾弾されるべきであるとし、
 この風潮に基づく政策に対する反発は本田氏の活動の
 原動力でもある。厚生労働省を名指しにするなど過激と
 取る人もいるかも知れないが、病人危機に対する影響を
 考えれば医師として当然の行動で、勇気を持って挑戦す
 ることの少ない日本国民にとっては本当の意味で国民の
 安全に資する行動であると思う。

なお、本田氏からはこの本にかかわる著作権を医療制度
 研究会に提供したいというご意向があり、ありがたくお受け
 することになった。印税は医療制度研究会の活動に使わ
 れることになる。多くの方々の購読を願っている。(中澤記)